

徳島大学の就職

キャリア支援に向けたキャリア支援室の取り組み

キャリア支援室では、みなさんの就職活動を支援するため、さまざまな取り組みを行っています。就職活動中の学生だけでなく、もちろん1年生からの利用が可能です。キャリア支援室の取り組みをより知っていただくために、今回はその一部をご紹介します。



教養教育4号館1階。キャリア支援室内はこんな感じ。

を相談できるだけでなく、就職活動を進める上で欠かせないエントリーシートの添削や、個人面接の練習にも利用することができます。的確なアドバイスや情報提供を行うてみなさんをサポートしています。



個別に相談できるので、分からないことはなんでも聞いてください！

就職関連情報の提供

キャリア支援室には、1000社を超える企業の個別ファイルを設置しており、学生が直接手にとって、自由に求人票や会社案内を見ることができます。また、学内に届く求人票はすべて大学のシステム（ポートフォリオ）に登録しており、本学の学生なら誰でも学内外のパソコンやモバイルから求人票を検索することができます。ほかにも、学内外の説明会やセミナーの案内、学科やコースごとにまとめた卒業生の就職先一覧、先輩の就職活動体験記、新聞なども自由に閲覧できます。



企業の個別ファイルは学生が自由に手に取って閲覧できます。

公務員・教員採用試験に関する資料も置いてあります。都道府県別試験種別に整理し、採用試験の案内や要項、パンフレットなどを学生が自由に持ち帰ることができます。過去問や過去の募集要項なども保管してあります。また、筆記試験対策用の問題集や、面接対策本、業界地図や四季報など就職活動に関するさまざまな図書の貸出やDVDの視聴サービスも行っています。



キャリア支援室にはたくさんの案内チラシや就活関連の冊子が届きます！

OB・OGの紹介
学生が志望する企業などに、連絡が取れるOB・OGがいる場合は、キャリア支援室が連絡を取り次いでいます。実際に働いているOB・OGから直接話を伺うことは、企業研究の有効な手段です。最近利用する学生が増えています。

就職ガイダンスの開催

毎年、5月の就職ナビサイト登録会を皮切りに、外部の講師を招聘し、年間30回以上、就活のためのフォローアップガイダンスを行っています。インターンシップ活用術、自己分析の進め方、スーツの着こなし講座、就活メイクアップ講座、エントリーシート対策講座、筆記試験受験会、集団討論練習会、集団面接練習会など、時期に合わせた多種多様なガイダンスを計画しています。講義形式のガイダンスだけでなく、実践型の模擬練習会や少人数制の講座も取り入れ、きめ細かい指導を行っ

就職相談

経験豊かなキャリアカウンセラーや就職コーディネーターによる個別相談を受け付けています。就職活動に関するさまざまな悩み

キャリア支援室

開室時間：8時30分～17時15分
場所：常三島キャンパス教養教育4号館1階

就職相談

1人40分～1時間程度
※面談時間・曜日は時期によって異なります。
掲示のポスターを確認してください。
WEBから予約ができるようになりました。



ています。

個別説明会の開催

会社説明会や選考会に参加するための交通費は、学生にとって大きな経済的負担となります。その負担を軽減するため、年間およそ170社の企業の採用担当者を招いて、それぞれの会社の概要や採用条件について聞くことができる学内での個別企業説明会を行っています。



集団討論練習会の様子。少人数制のガイダンスもっています。



講義形式の就職ガイダンスの様子。就活は事前の準備が肝心です！

います。また、自治体の担当者を招いての教員採用試験説明会、国家公務員・地方公務員業務説明会も開催しています。

合同企業説明会の開催

就職活動解禁後は、多くの企業の採用担当者が一堂に会する合同企業説明会を行っています。昨年度は、2日間にわたり全120社以上の企業が参加した合同企業説明会を開催し、連日300人以上の学生が足を運びました。



昨年度の合同企業説明会の様子。

バスツアーの企画

他府県で開催される大規模な合同企業説明会に本学からも多くの学生が参加できるよう、年数回、大学に発着する無料往復バスを手配しています。昨年度はインテックス大阪やマイドームおさかななど3箇所へバスを手配し、のべ250人以上の学生が利用しました。



県外の合同企業説明会に向かうバスにリクルートスーツ姿で乗り込む学生。



2万人以上の学生が来場した県外の大規模な合同企業説明会の様子。

セカンドキャンパス

県外での就職活動の支援として徳島大学セカンドキャンパス（現在は東京、大阪、名古屋、広島、福岡）を開設しています。説明会や選考会で各都市へ立ち寄った際の休憩所として利用できるほか、荷物の一時預かりサービス、更衣室の利用サービス、パソコンやコピー機などが利用できるラウンジ利用サービス、本学の学生は無料で受けることができます。詳しくは掲示のポスターをご覧ください。

インターンシップ参加への支援

インターンシップは、自分の適性や能力、将来のキャリアについて実践的に考える機会であり、特に近年では、インターンシップへの参加が、企業にとっても、学生にとっても、ますます注目されるようになってきました。

キャリア支援室では、提携インターンシップを設け、インターンシップ先を紹介したり、企業から届くインターンシップ情報を公開したり、手続きなどで分からないものがあれば随時相談に乗っています。

これからもより良い支援を目指します！

就職活動の時期や環境、企業動向や学生の動きは年によって異なります。ガイダンスの内容や実施時期などは、毎年見直しを行っています。また、現在実施している就職活動支援に加えて、今年度は内定者報告会の開催、来年度は保護者向けガイダンスの開催を計画しています。

就職活動を控えるみなさんへ

就職活動は決して簡単なものではありません。ですが、目標を持ち、前向きに積極的に行動することでさまざまな試練を乗り越えることができます。志望先から内定をもらうころには、きつとひとまわり成長した自分の姿に気がつくでしょう。

みなさんが将来、就きたい業界に進めるように、わたしたちも日々試行錯誤を重ねています。分からないことや悩むことがあれば、気軽にキャリア支援室のドアを開けてみてください。キャリア支援室一同、みなさんのご利用を心よりお待ちしております。

就職活動記



就職活動で大切なこと

〔勤務先〕京セラ株式会社
〔平成28年3月〕工学部化学応用工学科卒業
〔出身地〕徳島県

中村 和史（なかもらかずし）

「モノづくりがしたい」。これは私が大学入学時から抱いていた思いです。

元々化学や数学が好きで、実際にその知識を生かして製品を提供することができるモノづくりに関わる業務に興味を持ちました。そのため学生時代は専攻していた化学系のメーカーに就職したいという漠然とした考えを持っていました。ところがモノづくりといっても、生産技術や設計・研究開発など様々な職種があるということを知りました。そのきっかけは学部3年生の時に参加させていたいたインターンシップでした。クリーンルームと呼ばれるほこりやちりが全くない現場での作業や、お客さんと製品の性能に関しての打ち合わせ、製造に必要なコストをパソコンでシミュレーションす

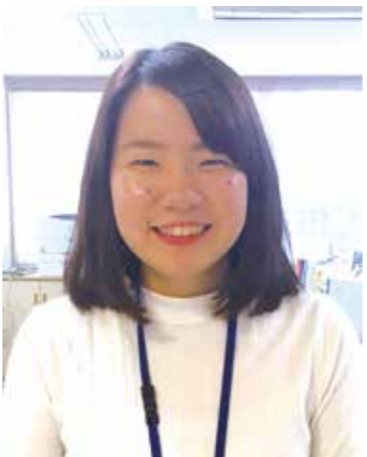
るなど、どの体験も私にとって初めての光景でした。そこで自分なりに動くとはどういうことか具体的にイメージすることができました。

その経験を踏まえて、就職活動をする際には実際に見て触れて感じたことを大切にしたいという考えを持っていました。3年生3月の就職活動時期からはできるだけの就職活動時期からの方と業務や社員のことについてお話を伺ったり、実際に工場の見学をさせていただいたりしました。

望動機が明確になり、少しずつ自信がついて面接でも落ち着いて対応することができました。そのおかげもあり無事4年生の8月に内定をいただくことができました。

現在は先輩社員や上司の方々に仕事を教えていただきながら、日々勉強ですが非常にやりがいを感じる毎日過ごしています。

最後に、就職活動時、たくさんの選択肢があります。どんなところで働くか、何がしたいか、誰と働くかなど。その中で「自分にとって何が大切か？」という自分の軸のようなものを持つていると判断を間違えることがないのかなと就職活動を終えた今思えます。皆さんもたくさんの人や企業と接して自分なりの軸を探してみてください。



早めの対策を

〔勤務先〕海陽町役場 保健環境課
〔平成28年3月〕医学部保健学科看護学専攻卒業

〔職種〕保健師

〔出身地〕徳島県

武田 真帆（たけだまほ）

保健師を目指した理由

授業で保健師について学び、地域の中で住民の健康を守るという保健師の活動に興味を持つようになりました。特に、保健師は新生児から高齢者まであらゆるライフサイクルにおける人を対象とし、継続的に住民の健康度向上に携わることができるところが魅力的だと感じました。

また、臨地実習や私生活を通して、生活習慣病にかかり健康な生活を奪われている方が多いと感じ、予防の大切さを痛感するようになりました。病気の発症や重症化を予防したいと強く思い、保健師を目指すことにしました。

海陽町での保健師の活動

現在、私は成人保健と母子保健を担当しています。

成人保健では、担当地区の特定

健診対象者に保健指導につなげるために、戸別訪問をして受診勧奨を行っています。未受診の方に関しては、自分の身体を理解し生活を見直していくための健診だということを理解してもらえず、病気が見つかった時には重症化しているということがあります。未受診者の方に、どのように働きかければ健診を受けてもらうことができるかというのが今の課題です。

母子保健では、新生児訪問や乳幼児健診、保健相談をしています。妊娠・出産・育児を通して、子どもが順調に成長発達しているか、母親が育児困難を抱えていないかなどを確認し、必要な支援につなげるように取り組んでいます。

就職活動を振り返って

面接対策等では、キャリア支援室の先生や、研究室の先生方に指

導していただきました。キャリア支援室は、就職試験の一次試験を通過してから通いましたが、短い時間でも効率的に対策をすることができ、利用してよかったと思いました。先生方は親身になってご指導してくださり、とても感謝しています。

最後に

私は大学時代に自分が関心を持っていた生活習慣病の予防を中心に保健師という仕事をしていきます。みなさんも、授業や生活を通して、じっくりと自分のやりたいことについて考えてみてください。また、私は就職活動を通して、もっと早く対策をおけば良かったと何度も思いました。やりたいことが決まったら、情報収集をして、早めに対策に取り組むことが大切だと思います。

徳島大学の就職

徳島大学の在學生に望むこと



「自分なりに考える」
ことの大切さ
徳島新聞社総務局人事開発室
多田 一成 (ただ かずなり)

職業選択をする上において、まず必要なことは自分の未来をイメージすることだと思います。自分の過去を振り返った上で、これから自分は「どこで生き、何をしたいか」を考え、自分の未来像をイメージしてみると良いと思います。未来の自分が何となくでも見えてくると、そこに辿り着くにはどうすれば良いか、その方法を「自分なりに考える」ようになってくると思います。

徳島新聞社が「徳島大学の在學生に望むこと」もそこにあります。当社は「県民と共に行く」を信条に、県民に寄り添う報道を七十年以上続けてきました。それは社として「どんな情報を、どのように伝えるか」、試行錯誤を繰り返してきた歴史であると同時に



「変態」の必要性
日亜化学工業株式会社
人事部採用課課長
森 義章 (もり よしあき)

採用面接をしていて、最近「変態」をしていない学生が多いな…、と感じる。

最初に断っておくが、私が言いたい「変態」とは、人前で着ているコートをズバツと開ければ、下着一丁だった人を指すものではない。

「変態」とは、昆虫の蝶で例えるなら、正常な生育過程である「卵↓幼虫↓サナギ↓成虫」と形態を変えていくことである。特にサナギの時期は、幼虫であった体が殻の中で一旦ドロドロになり、美しい蝶として飛び出す前の一番大事な時期である。

現在の日本では、小さい頃からTVゲームやインターネットの仮想現実しか体験せず、自分自身で本物を見たり、触ったりして感じる。

特に高校・大学時代は、昆虫のサナギ時期にあたり、肉体・精神面とも成熟する最も大切な時期である。学生時代の過ごし方次第で、立派に成熟して社会に出て行く学生と未成熟のまま社会に出て行かなければならない学生がいる。

しかし、未成熟であっても殻を破って社会に飛び出て行けるのはまだましな方で、殻に閉じこもったまま社会に出て行くこと

すらできない学生がいるのは、本当に困ったものである。

学生時代に、よく勉強し、よく考えて、よく体験し、「変態」くらしい劇的に成長した学生と面接できることを期待する。



真の国際人を育てるために 社会に出て使える語学を

大学院総合科学研究部 社会総合科学部門 教授 田久保 浩 (たくぼひろし)



田久保先生の講義の一つが「実用外国語演習(英語)」です。少人数ながら、毎週のミニプレゼン課題をこなしつつ、英語プレゼンテーションスキルを身につけることを目標として進めていきます。最終課題では、自分のテーマで聴衆を説得するプレゼンを行います。「学生が何を表現したいのか、というヒントは手助けしますが、テーマは自由です。英語でプレゼンのコツをつかむと、日本語の表現力にも生きてきます」。

プレゼンの構成は、相手に伝えたいことをなるべく直接的に組み立てます。例えば「私はこうしたい。その理由は四つある。その第一は…」というように説明を考え、それをジェスチャーや声の使い方を考えて、効果的に伝えます。

「相手の目を見ながら、身振り手振りも加えて、相手にわかりやすいように話すというのは、就職面接などにも役立ちますね」。

先生は、大学を卒業して高校の教師を務めました。大学院に行ってもっと学びたいと、三年で辞職。カ

ナダ、マニトバ州に三年、アメリカ、マサチューセッツ州に一年留学して学びました。それ以後もイングランドやオーストラリアにもたびたび訪れています。

ご自身の経験からも、英語は使わなければ身に付かないと、あらゆる場面、方法で学生たちが英語の発信が出来るように工夫されています。

元々イギリス文学が専門ですが、三年のゼミでは、卒業後、メディア社会で映像についての知識が役立つように、映画研究をテーマにしています。他大学で映画についての講義を

することもあります。

「学生も、海外に行つたとき、映画の話題で英語の会話が盛り上げられると良いですね」。

現在、本学の国際交流委員長としても、

「総合科学部にも国際教養コースができました。ただ机上で学ぶのではなく、聞いて読んで、発信する活動を通して世界の今とリンクした学びを目指しています。使える英語を身につけて、どんどん海外留学もしてほしいですね。世界とつながる人材を育てたいです」と、グローバルな人材育成に活動されています。